


令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

内容	
<ol style="list-style-type: none">1. 指導者紹介の後、生の歌声とピアノの演奏でミニ・コンサート。オペラ歌手が児童生徒の間近で有名なオペラ・アリアなどを歌います。その後、発声と表現法のワンポイント・レッスン、「てかがみ」合唱部分の歌唱指導へ続きます。2. 練習した合唱部分を基にダンスの振付練習を行います。3. 演出家がオペラ「てかがみ」の内容説明と、参加する児童生徒の役どころや登場するシーンの説明をします。4. シーン毎に歌う位置を決め、出入りの導線確認と演技やセリフの練習をします。5. 最後に登場から退場までを一連の流れで練習し、本番当日の午前中にキャストと一緒に行う最終リハーサルに結びつくように締めくくります。	
<p>* 楽譜とDVD(作品の解説、歌唱と振り付けの模範、ピアノ伴奏のみの練習教材の映像資料)を事前にご用意いたしますので、ワークショップ及び本番に備え、効率的な練習に利用できます。</p>	

タイムスケジュール(標準)
<ol style="list-style-type: none">1. 開始 30 分前に学校到着。2. 2 校時(希望は 2 時間程度)を使いワークショップ開催。3. 終了後、担当の先生との最終確認(控室の場所、キャストスタッフが本番当日に使用しても良いトイレ洗面所の確認、お弁当の手配についての確認など)。4. 後片付け、現状復帰と清掃などを行い、退校。

派遣者数
主指導者 1 名(オペラ全般と「てかがみ」の概要説明、発生指導など) 演出家、歌手 2 名、ピアニスト 1 名、制作(現地調査、学校との打合せなど) 計 6 名

学校における事前指導
<ol style="list-style-type: none">1. ワークショップ開始の前に送付する、部分台本と歌唱部分の楽譜に基づき、歌の練習をしておいて頂けるとワークショップ当日の進行が効率的になります。2. ワークショップは動きやすい服装、水分補給用の飲み物等をご準備頂くようご指導下さい。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—
本公演実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

演目

オペラ「てかがみ」
作曲:池辺晋一郎
台本:平石耕一
演出:三浦安浩
振付:三浦奈綾
構成:松山郁雄



公演時間(凡そ 80 分)

派遣者数

指揮者 1 名
オーケストラ 6 名
歌手 19 名
役者 1 名
スタッフ 14~15 名 (演出家 1 名、演出助手 1 名、舞台監督 1 名、舞台監督助手 2 名、照明スタッフ 3 名、音響スタッフ 1 名、衣裳スタッフ 2 名、メイクスタッフ 1 名、トラック運転手 1 名、制作 1~2 名)
計 41~42 名

タイムスケジュール (標準)

8:00-10:00 スタッフ到着。搬入と舞台設営準備
9:30 キャスト到着。ウォーミングアップ、メイク衣裳着付けなど
10:30-11:15 生徒参加シーンのリハーサル
11:15-13:00 サウンドチェック、昼食、その他の開演準備
13:00-15:00 本番
15:00-17:00 撤収、積込み、清掃、退校。
17:30 退校

実施校への協力依頼人員

直接上演に関わる事に関しては特段必要としませんが、生徒の円滑な誘導やその他で5～8名程度お願いする場合があります。ワークショップ時の打ち合わせで確定して依頼をいたします。

演目解説

オペラ「てかがみ」は2001年に新潟県新潟市で初演されて以来、全国各地で上演され続けており、第一回佐川吉男音楽奨励賞、五島記念文化財団の助成なども授与している作品です。

平石耕一の脚本は終戦の昭和20年と21世紀を迎える直前の平成12年(西暦2000年)の二つの時代を同時進行で描きながら解りやすく構成されています。また「オペラは演劇である」という理念を持つ作曲家、池辺晋一郎氏の作品だけに、オペラでありながらも演劇性が強く打ち出された作品として、オペラ歌手の歌唱を楽しみつつ、じっくりと物語に浸る事ができます。

作品はフィクションですが、綿密な調査を元に書かれた台本ですので、空襲の恐ろしさや戦時中の人々の疎開の様子などが迫力のある歌唱によって克明に表現されています。戦争モノにありがちな拷問や自決など残虐なシーンはなく、小中学生の皆様にも近現代の日本の歴史も学びながら有意義な鑑賞をして頂けると思います。

☆冒頭のシーンは披露宴会場でのボヤ騒ぎの後に式場を学校の体育館で…という設定ですが、これを実際の体育館で上演しますので、非常にリアリティがあり鑑賞して頂く皆様の心に残る公演になると確信しています。

<あらすじ>

今日は小学校(または中学校)教師の亮子と高校教師ジョンの結婚式です。教え子や友人に囲まれ幸せな二人。しかし披露宴の最中に式場で火災が発生。亮子の父親の勇一は燃えさかる炎に戦争当時の記憶をよみがえらせ、母親を見殺しにしてしまったあのいまわしい時代の事を娘に語り始めます。

亮子はこれまで父の苦悩にも気づかず、教え子達に何も伝えてこなかった事を思い悩みます。ジョンの母レイチェルは、勇一の話から戦争当時の収容所の軍医リチャードが自分の父親であることに気づき、アメリカから持参した小さな手鏡を亮子へと手渡します。この鏡こそが勇一の母カヨが軍医リチャードの婚約者へと託した「てかがみ」だったのです。

亮子は「てかがみ」に託された想いを受け止め、ジョンと二人で希望に満ちた明日に向かって歩き始めます。

主要キャストのキャラクターについて

<武田亮子>小学校(または中学校)の教諭。父の苦悩を知らずに生きてきた事で自分を責めている。

<武田勇一>亮子の父親。五歳の時に空襲の火災で母親を置き去りにしてしまった事がトラウマとなり、心の底に隠していたが、式場で炎を見て忌まわしい過去を思い出してしまう。

<レイチェル・ターナー>小20年当時の軍医リチャードの娘でジョンの母親。

<ジョン・ターナー>高校の教師で亮子の婚約者。軍医リチャードの孫にあたる。

<リチャード・マクベイン>捕虜収容所に収監されている軍医。正義感が強く杉本監督とは常に対立関係にある。

<武田カヨ>勇一の母親。リチャードから介抱されたお礼に彼の許嫁に手鏡を贈る。長岡に疎

開するが空襲に遭い死亡する

＜杉本監督＞運送会社の監督。冷徹に見えるが、陰では捕虜の待遇も気にかけているような男。軍医リチャードとも最後は心が通じ合う。親友の妻であるカヨに恋慕の情を抱いており、後に五歳の勇一の育ての親となる。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

◎先生の結婚式にお祝いの歌を届けに来た生徒達の役として出演して頂きます。自分たちで作ったダンス付きの歌で先生に喜んでもらおうと張り切って登場します。

◎オペラの特長である歌いながら演技をする事を実感してもらえるよう、合唱部分に簡単な振り付けがついています。合唱部分は基本パターンを覚えてしまえば、3つのシーンで流用できるように作られています。

◎歌う事が苦手な生徒さんや要支援の生徒さん達にも参加して頂けるシーンが用意されています。具体的には学童疎開シーン(空襲から逃げ惑う親子等々)で、母親に手を引かれて登場する子供などに扮して登場して頂きます。歌はありません。

◎舞台上に登場しない(観劇のみの)生徒さん達も希望があれば、フィナーレの大合唱を客席から一緒に歌って頂けるような参加方法も可能で、全校生徒で感動を共感して頂けます。

児童生徒とのふれあい

公演前と終演後の限られた時間を有効に使って、生徒達との絆を深める努力をします。

具体的には養生シートの設置や椅子の配列の手伝いなど危険のない作業を手伝って頂く。本番当日の最終リハーサル終了後はメイクアップの見学(希望があればメイク体験なども)、小道具や照明、音響機材、特殊効果(映像)などの説明を受けながらのバックステージツアーなども可能です。終演後にはステージを使っての記念写真の撮影や出演した生徒やその他希望生徒さん達とキャストの代表数名とで交流会などを行う準備もあります。

